



「埋蔵文化財発掘調査③」

【はじめに】

今月は、市教育（委員会）が今年度民間地で行った発掘調査について紹介します。

喜友名貝塚

この遺跡は喜友名バス停一帯に位置しています。昭和29年に初めて確認され、貝塚時代前期～中期（約3000年前）およびグスク時代（約6000年前）～近代にわたる複合遺跡であることが分かりました。平成8年度に行われた沖縄県教育委員会による発掘調査では、貝塚時代やグスク時代の建物の跡などが見つかりました。さらに、戦前の屋敷跡なども見つかっています。

今回の発掘調査では、昔の人が掘り込んだと思われる跡が60基近く検出されました。中には「これが掘り込みの跡？」と思うような小さくておぼろげなものから、大きくてはっきりしたもののまで様々です。これらの掘り込みが何の跡なのかを確認するために手作業で掘っていくのですが、ずっと同じ姿勢で作業をするので、すぐ腰が痛くなるのです。その甲斐あってか、いくつか柱の跡を確認することが出来ました。一部は以前の工事による影響を受けており、はっきりとした建物の形は不明となっていますが、集中して検出され



▲今年度発掘調査で確認された遺構（喜友名貝塚）

問合せ：文化課 ☎8933-4430

たことから数回にわたり建て替えを行っていると考えられます。また、年代に關しては出土した遺物を調べて考察していくこととなります。現場を発掘して終わりというわけではないですね。さらに、貝塚時代前期の終わりごろのものと思われる石斧（せきふ）が出土していますが、グスク時代の遺物が出ていたりすることから、もともとあった貝塚時代の痕跡をグスク時代に掘り返したのかもしれない。貝塚時代の跡をグスク時代に掘り返し、さらに現代の私たちが掘り返す…。今私たちが立っている場所に、彼らも立っていたかもしれない。そう思うとなんだか感慨深いものがあります。

茶ぐわーゆんたく

143

楽しい思い出 サングワチャー

現在、市史編集では市内で行なわれていたサングワチャーについての聞き取り調査を行なっております。今回は、地域の先輩方から伺ったお話を少しだけ紹介いたします。

県内各地で女性の節供として知られる旧暦3月3日の行事を、宜野湾では「サングワチャー」と呼びます。戦前は多くの集落で若い女性たちが集落内の1カ所、または仲間同士で集まってごちそうを食べたり、歌や踊りをして遊びました。

大山では、家にサングワチャーを呼ぶと幸せが入るといわれ、大きな家を建ててサングワチャーをさせることを誇りに思っていたそうです。会場となった家には18歳以上の女性が集まり、ジューシーを食べ、サングワチャーの歌を歌いました。行事は3日から4日にかけて盛大に行なわれることで他の地域でも有名でした。

赤道の若い女性たちは、普段は着ないきれいな着物を着て友達同士で集まりました。集落全体の行事がなかったため、普天間まで遊びに行き、夕方に新城のサングワチャーを見て帰ったそうです。

字宜野湾、我如古では現在でも行事が行なわれています。市の文化財に指定されている我如古サンサーミーはこの行事で披露されます。字宜野湾では、以前は夜通し遊んだそうですが、ここ数年は昼

間のうちに行なわれます。酒と大根のシーエイ（酢和え）を頭に乘せた2人を先頭に、曲に合わせて踊りながら大きな円を描くように7周まわります。中には90代ぐらいの方も元気に踊り、「何十年も毎年踊ってきたから、この踊りは忘れない」と笑顔を見せます。

どの字でも、実際に行事を経験された先輩方は皆、懐かしそうに語ってください、楽しい思い出であることが感じられます。



▲字宜野湾サングワチャー（1994年）

『宜野湾市史』への問合せ  
市立博物館 ☎870-9317